



Debussy Extension

音楽とアートの境界知

出演

今、なぜドビュッシーなのか？

ドビュッシーの音楽は、ラモー、絵画、版画、ジャズ、ガムラン等さまざまな音楽、また象徴主義文学、アートからも多くの影響を受け、また与えもしました。そうした彼の試みは西洋音楽の一般的な歴史観を解体し、主従関係を伴う時間に従属される音楽からの開放を行ったのです。

このレクチャーコンサートでは、そのようなドビュッシー音楽の特色を紹介するとともに、彼の音楽が現代の音楽や現代社会の例えばポストコロニアリズムへの問題へと繋がっていることを喚起できればと思うのです。



下川れいこ (ピアノ)



小森俊明 (作曲・ピアノ)

曲 目

- ラモー 『クラヴサン曲集より~優しい訴え』
- ドビュッシー 『ラモーを讀えて』 『月の光』 『アラベスク第1番』
- 『塔』 『荒れた寺にかかる月』 『スケッチブックから』
- 『英雄の子守歌』 『喜びの島』 『仮面』
- 小森俊明 『パヴァーヌ』



河合孝治 (作曲)

2023年 6月10日 (土)

開場 14:00 開演 14:30

場所：駒込ソフィアザールサロン 入場料：3000円 (予約・当日共)

主催・お問い合わせ TPAF(東京創造芸術祭) <https://tpafart.com> metamu.jp@gmail.com
 後援：Chap Chap Records 日本レシエティツキソサエティ
 江東区音楽家協会

